

# ハザードマップの見方

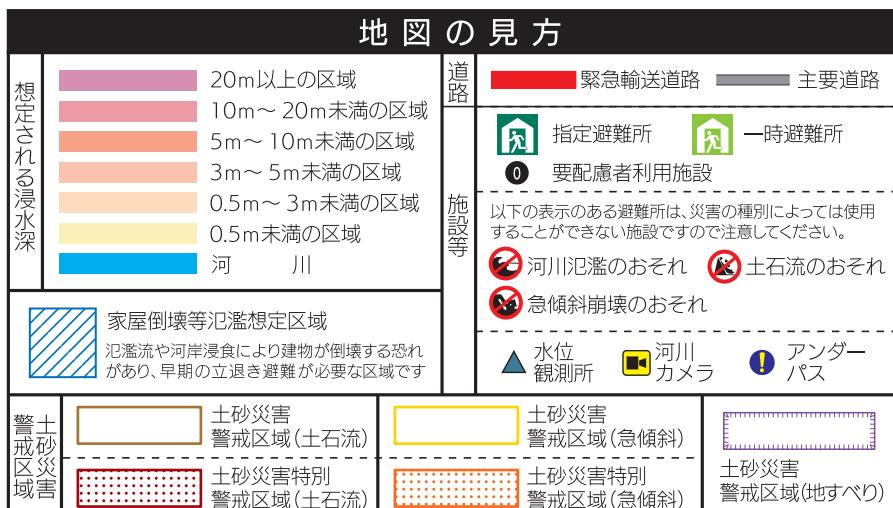
地図の見方を見ながらハザードマップを確認してみましょう。

## 指定避難所

災害時に市が開設します。災害が長期化した場合には避難者の一時的な生活の場となります。  
運営は市や地域の方、避難者などで協力して行います。

## 一時避難所

地域の自主防災組織、町内会等が開設します。一時的に集合して待機する場所となります。災害の状況によっては、避難者は安全な指定避難所へ移動します。

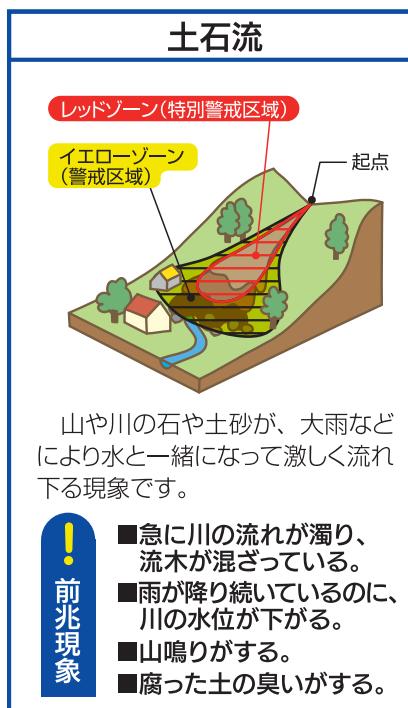
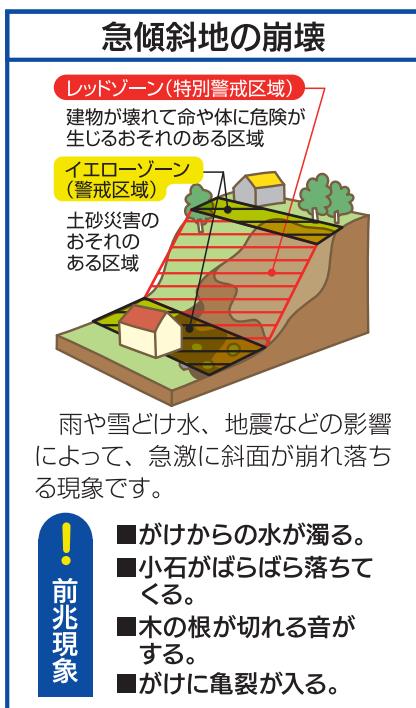


\*色覚多様性の方は見え方をサポートするアプリをご利用いただくことで見やすくなることがあります。

## 土砂災害（特別）警戒区域について



- このマップに記載した「土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）」、「土砂災害警戒区域（イエローゾーン）」は、岐阜県が調査に基づき指定した土砂災害のおそれがある区域を示しています。
- マップには令和6年1月までに告示された区域を表示しています。最新の区域情報は、「ぎふ山と川の危険箇所マップ（web）」をご確認ください。
- 土砂災害（特別）警戒区域には3種類の現象があります。



## 洪水浸水想定区域について

洪水浸水想定区域とは、水防法に基づき、河川管理者（国または県）が指定するものです。

浸水区域・水深は地盤の高さを5~10m四方ごとに設定した上で検討したものです。このため、地盤の高さが変化する場所では、想定した範囲や浸水深が実際と異なる場合があります。

浸水の状況「想定される浸水深」は以下の2つの考え方に基づいて表示しています。

- 10~50年に1度起こりうる計画規模の洪水「L1」
- 1000年に1度起こると想定される最大規模の洪水「L2」

浸水深が居住するスペースの高さを超す場合や、家屋倒壊等氾濫想定区域内の場合は早期の立退き避難が必要です。

